

令和2年度 第1回
寒河江市総合教育会議
会 議 録

令和2年11月4日 開会

令和2年11月4日（水曜日） 令和2年度 第1回寒河江市総合教育会議

○ 会議出席者

寒河江市長	佐藤洋樹		
寒河江市教育長	軽部賢		
寒河江市教育委員	鈴木淳一	國井晴彦	
	高橋まり子	鈴木多鶴子	

○ 事務局職員の職氏名

総務課長	設楽伸子	総務課課長補佐	佐藤倫久
学校教育課長	佐藤肇	指導推進室長	茂木隆
生涯学習課長	柏倉信一	スポーツ振興課長	小泉尚
学校教育課課長補佐	佐藤芳朗	生涯学習課課長補佐	佐藤陽一
スポーツ振興課長補佐	笹原泰治		

○ 日程

令和2年度 第1回総合教育会議日程
令和2年11月4日（水）曜日

午後3時30分 開議
寒河江市立図書館2階会議室

1 開会

2 あいさつ

3 協議

(1) 寒河江市の教育等の振興に関する大綱について

(2) 第2次寒河江市教育振興計画の改定について

4 その他

5 閉会

1 開 会 午後3時30分

2 あいさつ (佐藤洋樹市長)

3 協 議 (座長：佐藤洋樹市長)

(1) 寒河江市の教育等の振興に関する大綱について

○佐藤洋樹市長

それでは次第に従って進めてまいりたいと思います。(1) 寒河江市の教育等の振興に関する大綱について、ですが、まず資料について説明をお願いします。

○佐藤肇学校教育課長

それでは、私の方からご説明申し上げます。

(1) 寒河江市の教育等の振興に関する大綱について、まず資料、A4 ヨコ長の「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱について」をご覧くださいと思います。

本市、教育等の振興に関する大綱につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3の規定に基づき、地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その施策の根本となる方針を定めるものです。

本市においては、平成28年3月に策定しました『第2次寒河江市教育振興計画』の「基本目標」及び「基本方針」を大綱として位置づけております。

この大綱ですけれども、計画期間を令和2年度までと規定されております。今回お配りしたカラー刷りの冊子「第2次寒河江市教育振興計画」4ページに記載されておりますが、2番の計画の期間ということで、5年後に教育振興計画の中間見直しが定められておまして、現在「寒河江市教育振興計画検討委員会」に諮問する形で、検討を進めていただいております。これまで同様「寒河江市教育振興計画」の「基本目標」及び「基本方針」を大綱として位置づけていくことで良いかどうかを、改め検討いただくものでございます。

続いて、具体的な大綱の内容についてでございますけれども、A3ヨコ長の「施策の体系」をご覧ください。左が平成28年の計画策定時のもの、右が今回計画の改定で予定されている体系図となっております。この体系図の「黄色塗りつぶし」されている「基本目標」と「基本方針」が大綱にあてられている項目となっております。右を見ていただきますと、今回の改定で見直し予定として、検討されているものが「赤四角」で囲んであります。つまり、今回の教育振興計画の重点ポイントとなる項目になりますけれども、これは「黄色塗りつぶし」外の、「主要施策」と「具体的な施策」の部分のみとなっておりますので、平成28年に定めた大綱については、現在のところ、引き続き同じ内容となることになる可能性が高いということでございます。以上、ご説明申し上げます。

○佐藤洋樹市長

今、説明頂きましたが、皆様からご質問ご意見お伺いしたいと思います。

○鈴木淳一委員

よろしく申し上げます。私は平成 27 年、ちょうどこの新しい総合教育会議が始まるという時の 4 月に教育委員の辞令を受け、今年度で 4 年目になりました。どうぞよろしく申し上げます。

先程の大綱についてですが、この教育総合会議の初めの頃に、大綱をどうするかのことについて協議したことを記憶しています。当時、寒河江市にはこれまでどおり、第 1 次寒河江市教育振興計画というものがございまして、先ほどご説明頂いたとおり、教育基本法第 17 条第 2 項にある、本市が目指す総合的な教育施策に係る教育目標や基本方針等の教育振興計画が、大綱に該当することということでしたので、寒河江市では教育振興計画を大綱に位置づけようということに決定したことを記憶しています。こちらの懐かしい、振興計画ですけれど裏面を見ると、鈴木多鶴子さんも有識者ということで参加されているということと、その計画の検討委員に当時 P T A だった國井晴彦さんのお名前も出ているということで、非常に身近な計画だったなと感じているところであります。

翌年平成 28 年には、第 2 次教育振興計画の目標や基本方針の策定が始まり、毎月協議調整をしていたのを思い出します。そこから「ふるさとを愛し、寒河江市から夢のある未来を切り拓く人づくり」～共に学ぶ、共に育む～という基本目標を提示していただきました。この基本目標を決めるまで当時の山田課長さんや現在の佐藤課長さんは相当苦勞されたと思います。たくさんの知恵で、基本の 3 つの柱が生まれました。「ふるさとを愛する心づくり」「共に学び、共に育む関わりづくり」「夢のある未来を切り開く人づくり」の 3 つです。この 3 つの柱で寒河江の未来を話し合ったことを思い出します。その後、現在の基本方針であります 1 から 5 の基本方針になり、それぞれの項目の施策を 1 つ 1 つ見直し決定していきました。

この話し合いの中で、「寒河江らしい教育とは何か」ということで、ふるさとを愛する心づくりではないかと、ふるさとを知ること、学ぶこと、愛する心を養うこと、子供たちに私のふるさと寒河江はいいところだと思えるところを育てること、大人に成長しその心の基盤にふるさとを育む、ふるさとの学習と推進、地域の宝を学習する、今でいう「寒河江さくらんぼ大学」の開催。慈恩寺学習や、慈恩寺コンサート。コミュニティーセンター構想もその頃話し合われたと思っております。

2 つ目に「共育（ともいく）」と書いて「きょういく」と読む字が当時はとても斬新でした。学習面では探究型の学習が注目され、相談しながら、協力しながら、といった共に学ぶ学習の始まりでもありました。また小中連携や、学習ボランティアなど、地域が一体となって地域で育てるということも叫ばれてきました。現在のコミュニティ・スクールへ向けての始まりのようでした。

また、当時の様子としては、「寒河江市は子育てに本気です」をテーマに、様々なことにチャレンジしてきたと思います。特に給食費無料化に向けての取り組みは、他の町や市に大きな影響を与えたと思います。

夢のある未来を切り開く人づくりとして、グローバル社会や情報化社会へ向けての取り組みが始まりました。まず、英語力の向上が注視されました。「英語を勉強しているのに、英語が話せないのはなぜなのか」「英会話が必要ではないのか」、そのようなことで、A L T の増員につながったと思います。ある学校では英語だけの授業もある。また ICT 機器の導入、暑さ対策としてエア

コンの環境整備、4年前にこれだけの計画目標を掲げ、実行してまいりました。およそ1年間かけて作り上げた第2次寒河江市教育振興計画に関わることができ、未来を語ることがとても面白かったと思い出します。

このテーマの大綱の期間ですが、先ほどご説明頂いたとおり、平成28年度から平成32年度までの5年間ですが、作り上げた第2次寒河江市教育振興基本計画は10年となっておりますので、今後5年間もこのまま、大綱としてはどうでしょうか。中間期となり、見直しは現在行われていますが、基本目標、基本方針の柱を基に進んでいますので、私はこのままの大綱で良いと思います。以上でございます。

○佐藤洋樹市長

高橋まり子委員からもお願いします。

○高橋まり子委員

私も、1番最初の基本目標が、素晴らしいなと思いました。「ふるさとを愛し、寒河江市から夢のある未来を切り拓く人づくり」そして、その後続く「共に学ぶ、共に育む」という文言が指針として明確になっていて、わかり易くていい言葉だと思いました。今、時代の流れが早く、あわせて自然災害とか、新型コロナウイルスのように予測のつかないことが起こりますので、常に見直しということは必要だと思うのですが、具体的な施策にあっては、様々な課題や目標というのは、いろんなことを持ち合わせているので、この施策がいろんな方針に関わってくると私は思いました。例えば、これから出てくる「さがえっこ育み10か条」というのは、基本方針の1「豊かな心と健やかな体を育む」に出てくる施策なのですが、この「10か条」というのは、具体的には5つの基本方針全てに当てはまり、つながってくると思います。ですので、基本方針は大きく捉えてあるので、中身がこれから変わってきても、この方針はすべてにつながってくると思いますので、今回この部分は見直す必要はないと思います。

○佐藤洋樹市長

では、鈴木委員、お願いします。

○鈴木多鶴子委員

第6次寒河江市振興計画の第1章「子どもがすくすく育つまち」の第4節「豊かな心と健やかな体の育成」、そして第5節「未来を切り開く学ぶ力の育成」。これに則って、基本目標「ふるさとを愛し、寒河江市から夢のある未来を切り拓く人づくり」～共に学ぶ、共に育む～、そして基本方針の1から5が連携しているのではないかなと思いましたので、私はこのままでいいのでは、と思いました。特に第1の「豊かな心と健やかな体を育む」の、「豊かな心」ということに関しては、ベースが幼児期の愛着関係にあると思います。これは福祉分野のことであるとは思いますが、こういった基本的なことは、福祉と教育との連携を図りながら、育てていかなければならないのではないかな、と思ったところです。また、この「豊かな心」というのは、様々な実体験を通して、感じる心や人を思いやる心が育つのではないか、というふうに思っています。間違ったこともするけれども、人から理解されているという信頼感があれば、また立ち直ることもでき

ますし、さらに豊かな心に結びついていくのではないかなと感じているところです。

基本方針の2に関しても、実体験を通した力、というふうになりますので、実体験がなければ教科書で学んでもなかなか身につかないということがありますので、主要施策や具体的な施策に出てくるとは思いますけれども、そういった実体験の大切さなども裏に込められているのではないかと考えています。

基本方針の3については、「生涯にわたって、生き生きと学び続ける取組を推進する」ということで、教育委員会では生涯スポーツという事が上げられていますけれども、生涯スポーツに関しても、健康を維持するためのスポーツというのも、これからは大事になってくるのでは、と思いますが、これもまた福祉の分野になってくるのかと思いますが、連携も必要なのではと思いました。以上、大綱はこれで、継続でいいと思います。

○佐藤洋樹市長

では、國井委員、お願いします。

○國井晴彦委員

よろしくお願いします。基本的にはこちらの改定の方で良いと思います。基本方針1と2ですが、最近コロナはじめ、世の中の流れが非常に激しくて、どちらの方向に行くか分からない。自分でこれが正しいと思った方向が、いつの間にかとんでもない方向に行ってしまうという事があります。我々は昔、「勉強しろ、勉強しろ」と言われてきたわけです。勉強して、いい高校に行き、いい大学に行き、いい企業に就職して、いい報酬を得て、その結果すばらしい生活を送ることができたというような方程式があったわけですが、今は「勉強しろ、勉強しろ」と、勉強だけしていれば、いい人生が送れるという保証はなくなってきています。こういう職業に就けば、一生食いつぶされることがない、というような時代ではなくなってきていますので、例えば、この施策に基づいて、寒河江市の子どもたちがパーフェクトにやったら素晴らしい人生になるかと言えば、いろんな子どもたちがいるので、そうとは限らない。ただ何が起こっても、それにくじけない、それによって誹謗中傷を受けても負けない、よく最近芸能人の方で自殺したということもあるようですが、そういったことに負けない精神力というか、会話力といったことも、この1、2あたりに付け足して、思い通りにいかなくても、「大丈夫だよ」といったことを付け足していただくと、さらに味のある計画になるのではないかと思います。以上です。

○佐藤洋樹市長

では、教育長。

○軽部賢教育長

この大綱というのは、先ほどの市長のご挨拶の中にもありましたが、市長部局と教育委員会の中で、教育に関する大綱を定めて、その大綱に基づいて教育振興計画、というような流れになっていくのだらうと思います。まず大事な部分は「大綱」という事だと思いますが、先ほど鈴木淳一委員からありましたが、これが作られた経緯については、総合教育会議の議事録をみますと、基本目標と基本方針の部分を大綱に位置付けるという事が確認されており、その期間は、市

の振興計画が10年間なので10年間とするのか、あるいは一般的には4、5年といわれているとか、そういった議論がなされていたのを読ませていただきました。協議の中で結論が出て、ホームページ上では5年間と明記されているのだと思いますが、今年度までが大綱の期間という事なので、来年度から改めて大綱を定める必要があり、それに基づいて市教育振興計画改定という流れになるのだと思います。いずれにしても教育振興計画の改定の時期なので、大綱も改定していくということが一番整合性が取れ、市の振興計画との整合性も取れるのだらうと思います。また10月23日に第1回目の教育振興計画検討委員会が開かれ、様々議論されている訳ですが、その中でも、細部については見直しをしなければならないが、基本方針としてはこれで良いのではないかと、といった方向で進んでおります。そのまま踏襲するという事ではなく、基本方針は同じだとしても、その内容は検討委員会の中で議論しておりますので、中身については検討しつつも、基本方針などは同じだということで、見かけ上は同じになるのですが、一応「改定」という形で来年度から、引きついでいくというようなことで良いかと思っております。ただ今、それぞれ委員の皆様からご意見をいただいて、良い点もあるし、また國井委員からあったように、時代の要請に応じて直していかなければならない、というようなこともありますので、見出しの部分の基本方針は同じにしても、その中身の書き方について、教育振興計画の議論なども踏まえて、時代に合った形に直していくという事が必要なのではないかと思っております。

○佐藤洋樹市長

10月23日に教育振興計画の検討委員会を開催したのですね。

○軽部賢教育長

はい。具体的な方針については、「これで良いだろう」ということになりました。学校教育課長からもあったように、「基本方針」の次の段階の「主要施策」の赤枠のところは、これからの時代に対応したものなので、改定をしていかなければならないだろうという事になっておりますので、中身の文言については変わってきても、大綱の柱になる部分については、検討はしていますけれども、形の上では同じものとして改定という事になると思います。

○佐藤洋樹市長

教育振興計画の「基本方針」と「基本方針」の部分が、大綱に位置付けられるという事です。教育委員の皆様からは、この通り、引き続きこの内容の大綱で良いのではないかというご意見をいただきました。國井議員からは、もっとたくましい子どもたちを育てられるような文言というか、気持ちが込められた表現もどうか、という意見もありました。

○軽部賢教育長

「大綱」の中には、「基本方針」がある訳ですが、その内容については國井委員からあったようなところは、加味していくことができると思っております。

○佐藤洋樹市長

皆様からは、これでいいのではないかと、といった意見がありました。つづいて、教育振興計画

の内容、具体的な施策の部分などについて、議論を進めていきたいと思ひます。

(2) 第2次寒河江市教育振興計画の改定について

○佐藤洋樹市長

では、説明をお願いします。

○佐藤肇学校教育課長

「第2次寒河江市教育推進計画」につきましては、先ほども申しあげましたが、平成28年度から令和7年度までの10年間を計画期間として、今年度、中間期として見直しをすることが定められています。

資料として「寒河江市教育振興計画検討委員会 委員の委嘱並びに第1回寒河江市教育振興計画検討委員会」の次第をご覧いただきたいと思ひます。検討委員会では、今回改定に向けた重点課題として次のようなことが話し合われました。

まず1つ目として、児童生徒1人1台タブレットの配備にともなう、「教育の情報化推進」に関すること。

2つ目として、「英語学習や国際理解教育」に関すること。

3つ目として、「さがえっこ育み10か条」や、コミュニティ・スクールに関すること。

4つ目として、給食費助成の継続に関すること。

5つ目として、「学校のあり方」に関すること。

6つ目として、国指定史跡慈恩寺に関すること。

7つ目として、スポーツツーリズムに関することなどが重点課題として話し合われました。

今回の総合教育会議におきましては、先ほど教育振興計画の体系図で、赤い四角枠でお示しした、今回修正または新設される、特に重要と思われる3つの「主要施策」を中心にご協議いただければと思ひます。

本日お配りの資料、「教育検討委員会次第」をめくっていただきますと、この3つの「主要施策」
「思いやりの心を育み、命や生き方を大切にす教育の推進」
「これからの時代を見据えた『教育の情報化』の推進」
「グローバル化に対応した教育の推進」について、こちらは内容の改定に向けた検討資料の抜粋でありますけれども、検討委員会では、この3項目に関して意見提案がなされましたので、紹介したいと思ひます。

「『さがえっこの育み10か条』について、学校などではどのような扱われているのか教えてほしい」という意見や、

「コミュニティ・スクールの推進について記載してあるが、学校と地域の連携について記載内容の通りで良いのではないか」といった意見。また、

「タブレットについて、分からないことが多いとする保護者の声がある。安全面について、ゲームは入れられないようにしてほしいという点、ソフトはどのようなものを入れるのかという点、書かなくなることで衰えがあるのではないかという点、紙でなく、タブレットの画面で文字を読むことで頭に入るのか」などの意見もございました。

「コミュニティ・スクール推進の取組みについて、現在市内5校でコミュニティ・スクールが活動しているが、より良いコーディネーターの配置計画について検討してほしい」。また、

「タブレット導入にともなう効果的な利用方法などの研修の機会を設けてほしい。また、モラル教育についても早期に実現させてほしい」と、

「インターネット犯罪に関して、性教育を学校のカリキュラムに位置付けたら良いと思う」というふうな様々な意見がございました。以上、よろしく申し上げます。

○佐藤洋樹市長

今説明がありました、「基本方針」の1と2の部分かと思いますが、皆さんの方からはいかがですか。

○國井晴彦委員

先日、教育振興計画の検討委員会にオブザーバー参加させていただきました。参加されたメンバーの方は非常に見識があって、活発な会議が行われたと思います。ただ、今後の時代の変化、特に「ICT教育」とか「外国語教育」など、時代の先のことを考えると、ここに書いてあることの他に、例えば、ALTでもいいのですが、教育関係に携わる外国人の方とか、インターネット関係に詳しい企業の方、ICTを使った授業の経験のある学習塾の方とか、留学とか海外との交流を積極的に行っている団体、またインターネットを介した有害情報に詳しい警察の方とか、そういった方もメンバーに加えていった方が、新しいことに対する意見が出てくるような気がしました。私もPTAの会長とか、JCの会長としてこういった会議に出たことがあるのですが、自分の仕事が多忙で、積極的な意見でなく通り一遍の答えしか出せないような状況がありますので、特に、これからのことに関しては、そういったことに詳しい方をもっと委員として入れて方が、より活発で、より良い意見が出るのではないかと思います。

内容に関しては、教育委員の学校訪問などでタブレットを使った授業を、これまで何度か見させていただきましたが、使い方に詳しい先生がやられると、今までとは違った効果的な授業で、生徒の理解度も上がってくるのではないかと感じました。と同時に、これをすべての先生がやるというのは、先生方の年齢も上がっていますし、非常に時間がかかるし、難しい面もあると思いました。これをいかに充実させていくのが、これからの課題であると思いました。

また、会議の中でタブレットに関する質問なども出たと思うのですが、こういった検討委員の方にも実際に学校に行ってもらって、タブレットを使った授業を見てもらう、そしてその素晴らしさを理解してもらおうというようなことも大事なのではないかと思います。

外国語教育も、グローバル化の英語教育にプラスして、タブレットも使用していけば、自宅でもネイティブな英会話も勉強できるし、英語能力も非常に向上して、ダブルで能力が上がっていくのではないかと期待感も持っています。ただ、基本的には外国の方などに触れ合う事によって、言葉だけでなく知識や経験も備わってくると思うので、今はコロナで仕方がないと思いますが、寒河江市独自で短期留学のような試みもいいのではないかと思います。以上でございます。

○佐藤洋樹市長

では鈴木委員。

○鈴木多鶴子委員

「ICTを活用した教育の推進」に関しては、「ミライシード」というソフトが導入されていることということで、どこでつまづいたのか、そこまで戻って学習することができるようになる、というようなことをお聞きしました。一人一人のつまづきや、進み具合を見て対応できる、ということなので、使いこなせればすごく学力が伸びるし、「わからない」といったことが子どもにとって解消されるのではないかなと思っていますところ。ただ、意欲的な子どもたちであればいいのですが、なかなか勉強に向かない子どもたちが、ICTを使ってもなかなか進まないようなことが、ちょっと心配なところもあるので、子どもに、ICTを使って勉強する楽しさを教えられる教師であることも進めていかなければならないのではないかと、と思いました。

私は、主任児童員もやっています、授業が分からなくて、学校がつまらなくて行けなくなったというお子さんの話も聞いています。そういった子どももICTを使えば、分からないところまで遡って、「分かるよろこび」というものを味わうことができれば、どんなにすばらしいかなと思ったところ。そして、ICTを使うことによって、ICTを使いこなす力も伸びますし、学力の定着につながるのではないかと思います。

今後の課題としては、ICTを使ってからの相関関係、具体的には、やる気のある子どもはどんどん伸びるとか、ICTに向かない子どもは伸びないとか、そういった相関関係を見ながら今後の対策にしていく必要があるのではないかと、思ったところ。またもう一方、ICTの欠点としては、実体験が乏しくなるのでは、といった危惧があるので、ICTを使ったといえども、感じる力とか実体験も大事にして、そういった力を伸ばしながら、特に自然の中での体験を大事に、感性を育てるといった教育も大切にしていかなければならないと感じているところ。

また、「思いやりの心を育み、命や生き方を大切にする教育の推進」についてですが、今の子どもたちは、様々な家庭環境で、それぞれの体験をして学校に通っているように感じます。根本的に一人一人の多様性を認められる学校になっていかなければならないと思います。学校だけでなく、社会が多様性を認めなければならぬ時代に入ってきましたので、学校としても、どの子どもも存在意義を感じられる学校というものが求められているのではないかと思います。その前提の上で、いじめや問題が起こった時に、正義が通るクラスに、またいじめのようなことが起こった時に、やさしさと勇気をもって話ができるクラス、学年にしていくことが大事なのではないかと思います。道徳の授業ばかりでなく、実際的な様々な場面の中で、その都度教え導くことが、クラスの文化として大事だと思っています。

あと、数値目標なのですが、第6次寒河江市振興計画の中の「豊かな心と健やかな体の育成」の目標値でもあるのですが、「おもいやりの意識」の数値が出てきていますけれども、この数値目標はこれだけなのかどうか、ということをお聞きしたいところでした。思いやりも大事ですし、自尊感情も大事だと思うので、そういった数値目標なども掲げても良いのかと思いました。

それから、「基本目標」とか「基本方針」でも思ったことなのですが、若者が活躍し、地域への愛着を持ち、活気を生み出す。そういった所がどこかにあればいいかなと思ったところがありました。検討委員のメンバーにしてもそうですけれど、そういった会議でいきいきと発言できる若者を加えるとか、若者が活躍できる場というものを意識しながら、何かこの中に入れていったら、ますます寒河江が活気づくのではないかなと思ったところ。

あと気になるところが、頑張っ頑張っ生きてきたからなのか、若い人たちの自殺が大変増えています。学校現場では、まじめに一生懸命やるといったことが求められてきた時代ではありましたが、そればかりではなく、リラックスして自分を大事にする時間を持ちましょうとか、そういったバランスのとり方というものも、学校教育でも教えていく必要があるのではないかなと感じているところがあります。社会でどう豊かに幸せに暮らしていくか、それは皆さん永遠の課題だと思いますので。それから、高校生になった時や社会に出た時の力をつける土台を、小中学校で付けていくことが大事なのではないかと思っています。以上です。

○軽部賢教育長

質問のあったことについてお答えしたいと思います。「数値目標」なのですが、これまで市の教育振興計画には「数値目標」というものはなかったのですが、今回から、市民の方と一緒に目指す姿を可視化し共有するためにも「数値目標」を設定することにし、後期の市教育振興計画には明記することにしました。市の第6次振興計画にも、もちろん、こういった「数値目標」がある訳ですが、それと整合性を取りながら連動させることにしておりますので、まずは、振興計画の「数値目標」を取り入れる、それから必要なものについては入れていこうというスタンスであります。先ほど鈴木多津鶴子委員からありましたが、「思いやりの意識」の数値目標だけでいいのか、もっと自尊感情といったものも必要ではないのか、ということについては、議論をして必要であれば加えていかなければならないと思うのですが、基本的には、様々な既存の調査があり、児童生徒でいえば、全国学力テストとか、そういった数値として既に示されているものを基本的に組み入れていくという事なので、改めて調査をするということになると、過去のデータ比較はできるのかということになるので、既存の調査項目の中で、先ほど鈴木委員がおっしゃったような経年で取れるデータなどがあるとすれば、そういったものも加えながら、ただあまりに多くなってしまっても煩雑になってしまってもいけないので、まずは焦点を絞るという事も必要なので、どの程度の「数値目標」が必要なのかという事も、これから検討していく必要があると思います。確かに、今子どもたちに対して、大事にしなければならないことは、「自尊感情」を持って生きていくことも、大事な視点なので、その指標が全国学力テストの中の学習状況調査の中で、どれが該当するのかという事も、もう一度精査しながら、盛り込んでいくかどうか検討していくことになのではないかと思います。

○佐藤洋樹市長

それでは、高橋委員。

○高橋まり子委員

ICTの活用について、多くの加筆修正が出てきていました。この分野について、今後かなりのスピードで世の中が変化していくと思われまじし、ハード面ソフト面で、その情報を活用していく能力、それに合わせてモラルの問題も発生してきますし、常に考えていかなければならない大事な分野なのだと感じました。ICTは学校だけでなく、世の中全体の技術革新が進んでいるので、それに合わせてどんどん変化していくのだろうと感じています。

私は、これの書き方について疑問に思ったところがあるのですが、「情報のモラル」のことが、

いろいろな場面でたくさん記載してありました。今回の資料2ページでは、道徳的分野というか、いじめ問題に関連して、ICT機器の扱い方について考えてみよう、という事だと思います。この後3ページでは、「基本的な使い方」とか、「使い方のルール」のようなところでも記載されていましたし、この後27ページの「ICTの活用」のところでも、タブレットを今後持ち帰った場合のルールをきちんと決めていかなければならない、などいろいろな場面で「情報モラル」についての記載がありました。2ページにある「タブレットの配布による情報モラル教育の推進」という個所は、タブレットを配ったからということに限らない問題だと思いました。いじめ問題とか、ネットを使ったことによる様々な問題というのは、タブレットを配ったことだけでなく、家庭のパソコンやスマホなどの使い方によるところもあると思うので、この辺の書き方をもう少し考えてみてもいいのかなと思いました。

あと、英語検定の「GTEC」について、よく知らなかったので調べてみたのですが、もともとは大学入試に向けて外部の英語検定が使われるので、教育の現場で活用しなければ、となってきたのだと思います。今までは「英検」というものが良く使われていて、今でもそのシェアは「英検」が多くを占めると、ネットではでていました。独学をするためには「英検」の方が問題集などが充実していて取り組みやすい、という見方がありました。また「GTEC」というのは、学校単位で申し込むものという事だったので、「英検」は個別受検なので、そういった違いがあるなと思いました。「GTEC」は、学校単位で申し込むという事になれば、全員受けなければならないという事で、保護者の受検費用の負担であるとか、そういった問題も出てくるのかなと思いました。

あと、「GTEC」の内容が、学校の英語の授業内容に即しているものだ、という事が書いてあったので、学校の先生が検定に対して指導するという事であれば、「GTEC」は非常に取り組みやすいのではないかと思います。ただ、それが先生方の負担増につながっていかないか、という事も感じたところです。

現在、大学入試の英語検定は、いろいろ動いていますけれども、これが今後の入試にも外部の英語検定が使われるかもしれないし、すでに使っているところもあるようなので、もしそういった流れになっていくという事であれば、やはり学校として、そういった英語検定にも本腰を入れて対策を立てていく必要がある分野なのかなと思います。

そしてこの書き方ですけれども、30ページに「教員の研修のための活用」というふうに読み取れたので、ここは少し考えていただきたいと思います。

もう1点、「コミュニティ・スクール」のことについてなのですが、このとらえ方としてはっきり出てきたのが、命を学ぶための社会体験をたくさんしようという場面で、コミュニティ・スクールをおおいに活用しよう、という記載があったのですが、このままだと、「社会体験のためのコミュニティ・スクール」といったイメージが大きいような気がしました。コミュニティ・スクールでは、食育、読書推進や読み聞かせなどの場面にも地域のボランティアさんが入っていますし、ふるさとを大事にしようという場面でも、ふるさとの歴史を学ぶことや地域の文化活動の場面、またそれを手伝ってくれる地域の方たちにとっての「いきがづくり」といったことにもつながってくると思うので、そういったことについても、もう少し加筆があるといいのかなと思いました。以上です。

○佐藤洋樹市長

はい、ありがとうございます。では、鈴木委員から。

○鈴木淳一委員

第2次教育振興計画の改定についてということで、正直、これに携わった人間として、何か間違っていたことを直すのかな、と微妙な立場にいるのですけれど、まず、この教育振興計画を作って、だれに見せるのか、という事があったので、これをいかに見せるのかという手立ても必要なのではないかと思ったところです。こういったものを作るときに写真を多く使うと、注目を浴びたり、また今流行りのQRコードなどで、動画なども付け加えたりすると、より注目度が上がるのではないかと思いました。これまで時代も変わってきたということで、足りなくなったものを追加するというか、今、寒河江市で何をやっているのかという事を分かってもらうために、こういったものを作ると思うので、注目されることでしたら、やはり、「ライフデザインセミナー」を重視したら良いのではないかと思いました。先ほど、負けない強さとか、生きる価値ということで、夢がない子どもが多くなったというか、なんだかわからないけど、ユーチューバーを目指すという子どもがいたりしていると思います。まあ、目玉政策を打ち出すことも必要なのではないかと感じました。またそういった、学校での講演会のようなものも必要なのではないかと思いました。

私も、オブザーバーとして、検討委員会に参加させていただいたときに、委員の皆さんにとってネットの不安というものは消えないのかなと思ったので、そちらの方も重視していかなければ、トラブルは解決しないのかなと思いました。

また、寒河江市ではICTを積極的に進めていただいていることに感謝したいと思います。更に最新型の大型電子黒板も拝見させていただきましたが、ますます学習の幅が広がって、GIGAスクール構想が進んでいると感じました。

話は変わりますが、先日柴橋小を訪問した時に、6年生が39人1クラスになるという話をお聞きして、その場合、タブレットの使い方とか先生1人で教えることができるのか不安に思ったので、そういったことへの対策も必要なのではと感じたところでした。

私としては、もっとこの教育振興計画を見てもらえればと思ったところでした。

○軽部賢教育長

鈴木委員からあったとおり、先日の検討委員会の中でも、市民の皆様がわかりやすい形で、また、これからどういったことをやっていくのかという事を、学校教育だけでなく、生涯学習も、スポーツも分かりやすくという事がありましたので、鈴木委員からあったようなことが取り入れられるか検討して、思いが市民の方にわかりやすく伝わるように、工夫していくというようなことが大事だろうな、というふうに思いました。

第6次の市振興計画も改定なので、それとしっかり価値観を共有しながら、教育に対する思いを盛り込んでいくということで、市で取り組んでいる人口減少への対応とか、あるいは時代にあう子どもたちの郷土愛の育成とか、そういった市の振興計画で大事にしている考え方や理念といったものも、しっかりと教育振興計画に盛り込んで、施策を展開できるように改定していくという事をコンセプトに、しかも分かりやすい形で目指す姿を示すように、数値目標なども入れなが

らやっていくというようなことを説明しながら、現在議論していただいているところです。

今話題になっている、思いやりとタブレットとグローバル化に関して、様々ご意見が出ておりますが、高橋委員からは「GTEC」と「英検」との関係というのがありましたけれども、今回「GTEC」を導入したのは、「英検」の方が歴史的にはるかに長く、認知もされているのだと思いますが、3級、2級の合格、不合格ということではなくて、これから大事にされていく4つの技能をスコア型で測れて、自分の点数がどういった位置なのか認識できるということと、それから、授業と連動しているのか、ということなのですが、「GTEC」は先生方の研修もセットになっているので、英語の先生方が「GTEC」の結果を踏まえながら、どうすれば授業を改善していくことができるか、といった研修の部分も一緒になっているので、取り入れることにしました。

「GTEC」を取り入れている自治体も少しずつ増え、また今年から小学校も英語が教科化になっているので、例えば小学校5年、6年で「GTEC」を実施して、そのスコアによって次の中学校での指導にどう活かすか、ということも英語力向上につなげていくことにもなるのではないかと考えているところです。

國井議員からありました、短期留学というようなことも、いろいろ模索をして、実施できればいいなと思っております。今「イングリッシュday」といった取り組みも行っていますが、これを、例えば福島や東京に英語専門の研修施設がありますので、そういった所に行けないのかとか、また将来的には海外へといった目標があれば子どもたちも、がんばるきっかけになるだろうし、英語力の向上というのは日常的に、英語をどのくらい使っているかという事が大事だと思いますので、日常的に子どもたちが英語を使う必要感のようなものを作っていく必要はないかと思っております。今、寒河江市にどれくらいの外国の方がいるか分かりませんが、そういった人たちと話す場面とか、あるいはインバウンドで外国の方が来た時に、自分たちの故郷を紹介できるような、そういった必要感を作っていくようなことも大事だろうと思っております。先ほども、タブレットと英語の連携という事がありました。鈴木多鶴子委員からあった「ミライシード」にも、すべての教科のドリルなども入っておりますので、例えば、家庭に持ち帰った時に英語を学習して、それを授業で活用するといった、うまいサイクルに乗せられれば、英語に触れる機会も増えていくので、少しずつ英語力の向上につながっていくのではないかと考えております。

今、英語の授業改善という事がいわれています。もちろん授業は大事なのですが、子どもたちが、読んだり、聞いたり、話したりする、そんな場面を意図的に作っていくことで子どもたちの英語力が向上につながるとすれば、家庭の中でも、これからはタブレットを持ち帰ることになるので、タブレットを通してネイティブな英語に触れ合う様な部分を作って、それとうまく関連付けながら、英語力向上を図れないかということを検討しているところであります。

あと、ICTの便利さの陰の部分というか、そのようなことは先日の検討委員会の中でも多くの方が心配されているところなので、持ち帰った時の約束事とか、デジタル機器の便利さと、その弊害のようなところをしっかりと理解していただくための手引きのようなものも必要になってくるのではないかと考えているところです。

思いやりの気持ちや、一人一人の子どもたちの多様性の大切さという事で、「さがえっ子育み10か条」というものを、平成23年から継続してきているのですが、どれくらい効果が上がっているのか評価検証してきたのか、という事に対して課題意識を持っておりまして、今年あたりから「10か条」のそれぞれの項目が、どれくらい達成されているのか、例えば、朝ごはん食べて

いるとか、学習時間とか、そういったものは「10か条」と連動するものであって、既存の調査で評価検証できる部分だと思います。ただ「10か条」が、家庭と学校と社会が一緒になって子どもたちを育てているということ謳っているのですが、学校や家庭はかなり意識していると思うのですが、社会全体への啓発などが行えないかという事を思っております。市民総がかりで取り組んでこそ、効果が上がっていくだろうと思いますので、ホームページに「10か条」を載せるという意見も先日ありましたが、これをどんな形で広げていくか、そして「ここまで達成されている」ということを検証しながら、難しい部分については改善を行ってことが必要なかと思っ
ているところです。

○佐藤洋樹市長

これは、振興計画全体を見直すわけですよ。今回の議論は部分的なところとか、柱建てのところについてご意見を伺うという感じなのですか。体系図の枠で囲んでいるところ。

○軽部賢教育長

そうです。そこが前回と大きく変わってくる個所が、その部分になりますので、本日議論していただいているところです。

○佐藤洋樹市長

これだけ見ると、体系図の左の部分にも書いてあることを分けたということになるのですよね。まあ、それが今後5年間重要性が増してきたから分けたという事になるのだと思いますが、先ほど、鈴木多鶴子委員からもありましたが、本当にICTって効果があるのかどうか誰も分からないまま、コロナもあって、国から「在宅で勉強できるように」と、補助金が出されて、やっ
ていこうとしているからやっている、ところもある訳なのか、その辺をある程度やってみて検証していかなければならない、みたいなどころがあるので、その辺はプラスの面と、プラスでない面ということに気を付けていかないと、後で取り返すことができなくなるとまずいという気が、しないでもないのです。ただ、その教育的な面からいうと、どういう効果があるのかというですよ。だから人数がある程度多くなっても、1人1人先生がみられるようになっていくために、物として、そういったものを活用していくのか、そういったことがなかなか見えない訳です。先ほども話がありましたが、40人にもなると一人の先生では、きちんと見られないなどということが懸念されます。昼にあった市の振興審議会でも、先生方の技能とか、研修などが充実していかないとうまくいかないのではないかと心配する委員の方もおりました。確かに、進めていくことにはなっていく訳だけれども、ただ「前に、前に」という事だけでなく、俯瞰的に見て、カバーすべきところは気にしながら進めていければ、というふうに思います。だからといって「他のところを、後ろから追え」ということではないですよ。他の所よりは、先に行った方がいいのですけれど。

それから、もう1つ。鈴木多鶴子委員からもありましたが、若者向けの内容というのが、あまり出てきていないようです。教育計画というのは、教育委員会で所管する内容の計画な訳ですよ。だから、文化とかスポーツとか学校教育とか、限定されているようなところがあって、一般の方から見れば、「こういう所はなぜ無いのか」というふうになるかもしれない。生涯教育という

ように、子どもだけでなく、大人や青年も含めてという計画であるとするなら、その辺の書き込みがあってもいいような、気がしないでもないですね。市の振興計画の中にも、若者のいろいろな活性化の部分というのが出てくるので、そういった所も参考にしながら取り込んでいくことは、できるのではないかと思いますけどね。非常に幅の広い計画になっていくような気がしましたので。

○軽部賢教育長

國井委員からもありましたが、集まっているメンバーを変えるというのは、なかなか出来ない訳ですが、いろんな場面で意見を聴取しながら、まあ、今コミュニティ・スクールは5校で実施していますが、その運営協議会の中にもいろんな職域の方がいらっしゃるの、そういった声なども入れながら、やっていく必要があると思いますし、あと、これも國井議員からあったのですが、「タブレットの導入、本当に大丈夫なのか」と心配されている方は、現場を見ていないので、そう思うのかもしれませんが。実際に見てみると、子どもたちは教員以上に習熟しているし、私たちが見に行くと「こんなことができるよ」と、子どもの方から教えてくれたりもします。支援の必要な子どもたちも、生き生きと学習の中心になっている場面もあるので、いろんな方に見てもう機会などを設ければ理解は進むのではないかと思います。

○佐藤洋樹市長

おっしゃる通り、いろんな方の意見などもお聞きになる機会ができればいいですよ。委員の方だけでなく。大分、市の振興審議会の委員とダブっている方もいらっしゃるの、若い方の意見などもあればよろしいのではないかというふうに思います。そろそろ時間ですので、今日の話し合いについては、以上とさせていただきたいと思いますが、皆さんの方から何かありますか。無いようであれば、貴重なご意見を頂戴いたしまして誠にありがとうございます。市の振興計画も、教育振興計画もこれから佳境に入ることでありましようから、いろんなご意見なども参考にさせていただいて、よりよい計画づくりにさせていただければと思っております。どうもありがとうございました。

4 その他

5 閉 会 午後4時50分